

陽 玉(ようぎょく)

登録番号：第7571号

登録年月日：平成11年11月30日

登録者：長崎県（長崎県長崎市江戸町2-13）

育成者：一瀬 至 寺井理治 浅田 謙介 橋本基之 森田 昭

中尾 敬 富永由紀子

吉田俊雄 長門 潤 稗園

直史 佐藤義彦

来歴：「茂木」と「森本」の交雑実生

育成地：長崎県大村市（長崎県果樹試験場）

特 性

■栽培特性

樹勢はやや強く、樹姿は「茂木」と同じ直立性である。枝の太さは中程度で、その発生は「茂木」より少ない。葉は「茂木」より大きく、細長い。葉縁鋸齒の密度は低く、葉の葉脈は明瞭で、成葉裏面の毛じょうは多い。

花穂は大きく、小花こうは長く、下向きに着生する。花卉は黄白で、花は大きく、1花穂当たりの花数は中程度である。育成地における開花時期は12月上～下旬で、「茂木」とほぼ同時期である。新梢の発生時期も「茂木」と同時期である。

育成地で6月上旬に成熟し、収穫期は同じ中生種の「茂木」より若干遅い。結果樹齢への到達は中位の早さで、中心枝および副梢の着花性は「茂木」よりやや劣るが、大果であるので「茂木」と同程度の収量は期待できる。

幼果の耐寒性は、「茂木」程度で「長崎早生」より強い。

■果実特性

果実の大きさは約60gで、「茂木」よりも大きい。果実縦断面の形は短卵形、横断面は円形である。果頂部は開孔している。果皮色は橙黄色で、着色の揃いも良く、外観は良好である。果皮は薄く、剥皮性は良好である。また、果皮障害では紫斑症やそばかす症の発生が多い。

果肉は橙黄色で厚く、柔軟多汁である。糖度は「茂木」と同程度かやや劣るが、糖酸のバランスが良く、食味は「茂木」と同程度かやや優れる。

種子は短卵形で、褐色を呈し、種皮の白斑点は少ない。また、1果あたりに含まれる種子数は少ない。

■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

がんしゅ病には他の主要品種と同様り病性であるが、発生程度は「茂木」よりやや大きいので適期防除が必要である。他の病虫害については慣行の防除で問題ない。

着花性が「茂木」よりやや劣るので、枝の誘引などにより結果枝の確保に努める。また、着果させ過ぎると翌年の着花が極端に少なくなることがあるので、着房の多い年には適正着果となるよう摘房を行い、翌年の予備枝を確保する。

露地栽培、施設栽培ともに収穫初期に紫斑病が多発することがあるので、樹冠上部など高温になりやすい箇所は遮光率の高い果実袋を用いるなど対策を講じる必要がある。

本品種の果実品質の特徴として糖酸のバランスの良さがあげられるが、早採りした果実は酸味が強く食味が悪いので、早採りに注意し適熟果の収穫に努める。

■地域適応性

千葉県から鹿児島県までのビワの栽培地域で露地栽培が可能である。特に、大果、外観良好で、品質が優れていることから、露地栽培あるいは施設栽培により高級果実の生産を目指す産地において、その特性が十分発揮されるものと思われる。

(稗園直史)